

2017/12/8

金

19:00

18:30開場

浜離宮朝日ホール

December 8 (Fri), 2017 19:00
Hamarikyu Asahi Hall, Tokyo

細川千尋 ジャズライブ

ピアノ・作曲 細川千尋

ベース 鳥越啓介

ドラム 石川 智

チケット(全席指定) 4,000円

・イープラス:
<http://eplus.jp/chihiro-jazz/>

イープラス 細川千尋 検索

[チケット先行販売情報]

東京ジャズ先行: 9月2日(土) 10時~4日(月) 18時

e+座席選択先行: 9月7日(木) 12時~27日(水) 18時

- ・チケットぴあ: <http://t.pia.jp>
0570-02-9999 (Pコード: 343-337)
- ・ローソンチケット: <http://l-tike.com/>
0570-084-003 (Lコード: 76205)
0570-000-407 (オペレーター対応 10時~20時)
- ・朝日ホール・チケットセンター:
03-3267-9990 (日祝休10時~18時)

- 都合により曲目、曲順などを変更させていただく場合がございます。
- 未就学児のご入場はご遠慮ください。

主催○イープラス/テレビマンユニオン
お問い合わせ○テレビマンユニオン: 03-6418-8617
(土日祝休10時~18時)

グノー=J.S.バッハ: アヴェ・マリア
Gounod=J.S.Bach: Ave Maria

ガーシュウィン: サマータイム
G.Gershwin: Summertime

パガニーニの主題による“ジャズ”変奏曲
Paganini Variations

ケンプフェルト: L-O-V-E
B.Kaempfert: L-O-V-E

パーカー: マイ・リトル・スエード・シューズ
C.Parker: My little suede shoes

細川千尋: Pasion
C.Hosokawa: Pasion



細川 千尋

ジャズライブ

CHIIHIRO
JAZZ
LIVE

モントルー！
ジャズフェスティバル・
ファイナリスト、
期待の新人、
ここに現る！

プロフィール

細川 千尋 | ピアノ・作曲
CHIIHIRO HOSOKAWA
piano / composition



富山県出身。幼少よりピアノが大好きで、時間があればピアノに向かっていた。

数々の賞を受賞し、2013年には、スイスのモントルー・ジャズ・フェスティバル・ソロ・ピアノ・コンペティションにて、日本人女性初のファイナリストとなる。

同年11月、富山でソロ・コンサートを行い、モントルー・ジャズ・フェスティバル・イン・かわさきでは、チュー・チョ・ヴァルデス公演のオープニング・アクトを務め、連弾で共演。2014年4月にはアルテリッカしんゆり芸術祭にてソロ・コンサート、8月にはミュゼ・川崎シンフォニーホールでガーシュウインのラプソディ・イン・ブルーをオーケストラと共演。9月、モントルー（スイス）で行われたセプテンバー・ミュージックにソロで出演。川崎市アゼリア輝賞受賞。同年11月21日、全曲ソロ・ピアノ・オリジナル作品のデビューCD『Thanks!』をイノセントミュージックより発売。これまでに、イタリア、スイス、ベルギーでソロ・リサイタルを開催。

幅広いジャンルの演奏活動を国内外で行っている。クロスオーバーなオリジナル曲とトークも交えたソロ・ピアノコンサートは、高い評価を得ている。2016年2月に発表されたセカンド・アルバム『I'm home!』も好評発売中。2017年2月14日には大阪・ザ・シンフォニーホールにて大阪交響楽団をバックに熱演を披露。好評を博し、2018年の再演が決まっている。

昭和音楽大学大学院修了。現在、昭和音楽大学附属ピアノアートアカデミーに在籍。江口文子氏に師事。

鳥越 啓介 | ベース・作編曲
KEISUKE TORIGOE
bass / composition / arrangement



岡山県玉野市生まれ。高校時代、吹奏楽部に入部しコントラバスを弾き始める。高校卒業後、社会人の傍ら地元のビックバンドなどで活動。96年脱サラ、97年上京。その後、ジャズ・邦楽・ポップス・タンゴ・ブラジル音楽などその豊かな才能を駆使し、国内のみならず海外公演も含め、自らのバンドを展開し、また様々なセッションやレコーディングに参加。近年の主な共演者に椎名林檎、原田知世、加藤登紀子、安藤裕子、菊池成孔、MALTAらが名を連ねる。

石川 智 | ドラム
SATOSHI ISHIKAWA
drums



1967年、東京出身。ブラスバンドでパーカッションを演奏していた兄の影響で、9歳の頃からパーカッションを始める。中学時代、同級生と組んだロックバンドで初めてドラムを叩き始める。高校時代はフュージョン、ハードロック等にいそしみ、大学在学中にパーカッションを始め、ラテン音楽に目覚める。その中でも特にブラジル音楽に傾倒し、サンバ、ボサノヴァをはじめ、ブラジルのあらゆるリズム、奏法、アンサンブルスタイルをマスターする。この頃よりプロとしての演奏活動を開始。あらゆるセッション、レコーディングに積極的に参加し、その共演者やジャンルは多岐にわたる。



photo: ヒダキトモコ